

INT. 暗闇 - 夜

画面は真っ暗。静寂を切り裂くように、少女たちの声が低く響く。

少女たちの声（ハーモニーのように重なる）

ちっちーのーち…

直後、男の小さな、恐怖に震える悲鳴が闇に吸い込まれる。

CUT TO:

INT. 男の主観映像 - 夜

男の視界。ぼんやりと光が差し込む。

目が慣れるにつれ、薄暗い部屋の輪郭が浮かび上がる。

コンクリートの壁にひび割れ、剥がれた塗装。窓は板で塞がれ、隙間から微かな月光が漏れる。

男の手は椅子に固定されている。プラスチックの結束バンドが手首に食い込み、じわじわと血が滲む。

男の声（パニックで）

なんだ！ これは…！

視界に、ゆっくりと四人の少女が現れる。

高校の制服を着ている。それぞれ異なる学校のもの。

阿刀田萌香（16）：無表情。目だけが異様に鋭い。

そら（16）：冷ややかな微笑。カッターナイフを指で弄ぶ。

夏（17）：唇を噛み、怒りを抑えるように睨む。

花（17）：俯き、震える手でカッターナイフを握る。

四人の手には、刃先が鈍く光るカッターナイフ。

男の視界が揺れ、恐怖が加速する。

CUT TO:

INT. 廃墟の部屋 - 夜

部屋全体が映し出される。薄暗い室内。

埃と湿気の匂いが漂う。

中央に、半裸で椅子に縛られた阿刀田雄太（50）。

汗と血で汚れた肌が月光に照らされ、青白く光る。

結束バンドが手首と足首に食い込み、血が滴り落ちる。

雄太（萌香を認めて、声を張り上げる）

萌香！ いったいこれは何なんだ！

萌（無反応。視線は雄太を突き刺すように冷たい）

四人の少女たちは一瞬、顔を見合わせる。無言の合図。

そらと夏が雄太の右手首に、萌香と花が左手首に、それぞれカッターナイフを当てる。

刃が皮膚に触れる瞬間、雄太の身体がびくりと震える。

雄太（声が裏返る）

…おい。何してるんだ…！

少女たちの目が一斉に雄太に注がれる。

少女たち（声を揃えて、呪文のように）

ちっちーのーち。

その合図とともに、四人のカッターナイフが一斉に動く。

刃が雄太の両手首を裂く。

鮮血が弧を描いて飛び散り、コンクリートの床に赤い染みを作る。

雄太（絶叫）

うあああっ！

雄太（息を切らし、恐怖と痛みで顔を歪める）

萌香！ お前、自分が何やってるか分かってるのか！

萌香（無反応。唇がわずかに震えるだけ）

雄太（叫ぶ）

おい！ 今すぐこの縄を解け！

少女たちは再び顔を見合わせる。無言の確認。

四人が同時にカッターナイフを構え直す。

刃が月光にきらめく。

雄太（声を震わせ）

おい、やめろ！ やめろって！

萌香（静かに、しかし鋭く）

…聞いてこないんだ？

雄太（混乱）

あ？

萌香（一歩近づき、声を低くする）

なんで私がこんなことしてるか。

雄太の目が泳ぐ。言葉に詰まる。

萌香（さらに詰め寄る）

もしかして、心当たりとか…ある？

雄太（沈黙。視線をそらす）

…

少女たちの声が再び重なる。

少女たち

ちっちーの一ち。

カッターナイフが再び走る。

血が噴き出し、雄太の悲鳴が部屋に反響する。

床に新たな血だまりが広がる。

雄太（うめくように）

…頼む…やめてくれ…

萌香（無反応。目は燃えるような憎しみに満ちる）

雄太（掠れた声で）

…酔ってたんだ…何も覚えてない…

萌香（無言。唇を噛みしめる）

雄太（必死に弁解）

お前を傷つけるつもりなんかなかった…本当だ…！

少女たちは再び顔を見合わせる。無言の合意。

カッターナイフを構える。

雄太（絶叫）

萌香！ 俺は父親だぞ！

萌香（声を張り上げる。感情が爆発）

そう！ あんたは私の父親！

雄太が言葉を失う。

萌香（怒りを滲ませ）

父親が娘にあんなことするの？ それも一度や二度じゃな

い！ 酔ってたから？ そんなの理由になってない！

少女たち（声を揃えて）ちっちーのーち。

カッターナイフが再び動く。

血が飛び散り、雄太の身体が椅子に崩れ落ちそうになる。

床は血で真っ赤に染まる。

雄太（弱々しく、哀願）

やめてくれ…頼む…

萌香（無反応。冷たく見下ろす）

雄太は絶望的な目でそらと夏を見上げる。

雄太（掠れた声で）

頼む…君たちも…やめてくれ…

萌香（冷たく）

無駄だよ。

雄太の顔に絶望が広がる。

萌香（言葉を続ける）

この子たちも私と同じ。この子たちの父親も、あんたと同じ目に合わせてやった。だから…あんたで最後。

雄太（泣きそうな声で）

…お父さんが悪かった…許してくれ…頼む…

少女たちは再び顔を見合わせる。

カッターナイフを構える。

雄太（最後の力を振り絞って）

萌香…頼む…この通りだ…

雄太の目から涙がこぼれる。

萌香の目にも涙が浮かぶが、すぐに硬い決意に変わる。

萌香（声を震わせながら）

私もお願いしたよね。やめてって。何度も、何度も！ でも
あんたはやめてくれなかった！ 苦しかった！ 辛かった！
あんたが私を地獄に落とした！

少女たち（声を揃えて）

ちっちーの一ち。

カッターナイフが一齐に走る。

鮮血が飛び散り、雄太の身体がぐったりと動かなくなる。

床に広がる血だまりが、月光に鈍く光る。

雄太（意識を朦朧とさせ、掠れた声で）

…痛い…え…痛い…ふう…

雄太の頭が力なく垂れ、息絶える。

静寂が部屋を支配する。

そら（雄太を見下ろし、静かに）

…終わったね。

萌香（小さく頷く）

うん。終わった。

夏（萌香たちを見渡し）

じゃ、さっさとうちらも終わらせようか。

萌香（決意の表情で）

うん。

四人の少女は輪になる。

その右手にはカッターナイフ。それぞれの刃を、隣の少女
の左手首に当てる。

手を繋ぐような形で、互いを見つめ合う。

萌香（静かに、しかし力強く）

私たちのなかに流れてる…

そら（冷たく続ける）

どす黒い色をした…

夏（怒りを込めて）

おそろしく凶暴で…

花（震える声で）

如何ともしがたい…

少女たち（声を揃えて、最後の呪文のように）

ちっちーのーち。

刃が一斉に動く。

血が滴り落ち、床に新たな染みを作る。

画面がゆっくりと暗転。

FADE OUT.

終わり